

心得にて、さつと打明れば、水は下にもれて、海苔は簀へと、まる也。干揚るには、簀の儘干臺に圖略○圖の通り並べてほす也。乾あがりたるは取入片（ひき）て重ねて、上に板を置重しを置、去つとりと成たるを、一枚づ、よく見てかさぬべし、或は塵ほこり小具の殻杯付あるは、小刀の先にてはね除き、十枚を一帖とし、二ツに折て多く重く重ね、兩方より板にて狭べし、然して雨風に當るやう、箱に入貯ふべし、又久しく貯ふには、大きな壺を澀紙にて外よりはりたる中に入、口を能封じ置べし、如此して貯ふれば、夏を越ても少しも色かはる事なし。

〔令義解三賦役〕凡調略○中 正丁二人、絹繩八尺五寸、略○中 若輸雜物者、略○中 紫菜冊八斤、

〔延喜式五齋宮〕月料小月物別減冊分之二、

紫菜海松各二斤十三兩

〔延喜式民部〕交易雜物

土佐國（中略）紫菜一百斤○中略 右以正稅交易進、其運功食並用正稅

〔延喜式主計二十四〕凡諸國輸調略○中 一丁、略○中 紫菜、海藻根各十六斤、

凡中男一人輸作物、略○中 蒜、紫菜各二斤、

〔延喜式大膳三十三〕仁王經齋會供養料

僧一口別、略○中 紫菜一兩二分四銖（海菜料一兩、汁物料）、右一日供料依前件

〔延喜式內膳三十九〕供御月料

紫菜十二兩、略○中 右月料、小月減冊分之一、

〔續修東大寺正倉院文書別集十九〕奉寫一切經所解 申請用雜物事

合請新錢廿三貫九百九十三文、略○中 用一十七貫五百六十文、略○中 冊文紫菜二升直、略○中 升別廿文

以前、起去潤三月一日、盡今月廿九日、請用雜物并殘等、顯注如件以解、